

◆学校自己評価アンケート考察◆

◎重点4項目の実践

「あいさつ」「時間を守る」「清掃をする」「丁寧な言葉遣い」

前期の結果をふまえ、職員会議でも再度「重点項目」であることを周知した。職員間での認識が高まったこともあり、後期の評価ではかなり高く回復している。ただし、前年度と比較すると、全項目においてまだまだ課題が残ったといえるため、引き続き高い意識で日々の指導に臨まなければならない。また、生徒会活動を通じての呼びかけや協力を積極的に活用し、生徒たちから自発的に行動に移せるような取り組みを増やし、『あまりできなかった』という回答が減らせるよう取り組んでいきたい。

◎確かな学力の育成

「学ぶ楽しさがわかる授業づくりに取り組めたか」というところでは93%が肯定的な評価をしており、前期と比較しても高くなっている。「支援の配慮が必要な生徒について合理的配慮や個別支援の視点をもって取り組むことができているか」に対しても、肯定的な評価が93%と前期と比較して大幅に高くなっており、教職員の授業における努力や配慮の大きさが伺える。ただし、昨年度同様に、家庭学習の習慣やICTの活用、また発問の工夫においては引き続き課題として取り組みを強化していく必要がある。ただ、『確かな学力の育成』全般ではすべての項目で肯定的評価が増えており、このまま高い意識を継続しながらさらなる向上に務めたい。

◎豊かな心と健やかな体の育成

重点4項目にも入っている「清掃の指導」については、100%が肯定的に答えており、指導に関して周知徹底ができたといえる。「生徒の内面理解」「夢や目標を持ち、実現に向けて努力を続ける生徒の育成」という観点でも『よくできた』という評価は前期に比べて飛躍的に高くなっている。多くの項目で肯定評価が増えている一方で、「あまりできなかった」という反省が複数の項目で10%前後あることから、今後も様々な角度から生徒の心に寄り添ったかわりができるよう学校をあげて取り組んでいきたい。

◎信頼される学校・開かれた学校

今年度からスクリレを導入したことで、学校・学年・担任・部活動顧問など、さまざまな立場から保護者や地域への情報発信や保護者との連携がしやすくなっている。そういった意味でも、安心・安全かつ相談しやすく信頼される学校づくりにおいては高い評価になっていると思われる。

特に課題とされるのは、「勤務時間の適正化」問題である。ICTの活用等で、一部負担が軽減された業務があるものの、まだまだ教職員の業務の煩雑さは解消されない。削減やスリム化など、業務の内容を精査し、効率を考えた対策を進めたい。